

みずほCustomer Desk Report 2020/01/15号(As of 2020/01/14)

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	110.16
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	110.01	1.1135	122.50	1.2988	0.6898
SYD-NY High	110.22	1.1144	122.76	1.3034	0.6909
SYD-NY Low	109.85	1.1104	122.20	1.2955	0.6885
NY 5:00 PM	110.00	1.1126	122.37	1.3019	0.6905
NY DOW	28,939.67	32.62	日本2年債	-0.130	1.00bp
NASDAQ	9,251.33	▲22.60	日本10年債	0.010	1.00bp
S&P	3,283.15	▲4.98	米国2年債	1.5690	▲1.83bp
日経平均	24025.17	174.60	米国5年債	1.6175	▲3.29bp
TOPIX	1740.53	5.37	米国10年債	1.8118	▲3.50bp
シゴ日経先物	24,000.00	45.00	独10年債	-0.2090	▲1.20bp
ロンドンFT	7,622.35	4.75	英10年債	0.7200	▲2.80bp
DAX	13,456.49	4.97	豪10年債	1.2485	4.35bp
ハンセン指数	28,885.14	▲69.80	USDJPY 1M Vol	4.86	0.01%
上海総合	3,106.82	▲8.75	USDJPY 3M Vol	5.13	0.00%
NY金	1,544.60	▲6.00	USDJPY 6M Vol	5.50	0.00%
WTI	58.23	0.15	USDJPY 1M 25RR	-0.75	Yen Call Over
CRB指数	183.64	0.63	EURJPY 3M Vol	5.61	▲0.01%
ドルインデックス	97.39	0.05	EURJPY 6M Vol	6.05	0.15%

【昨日の指標等】

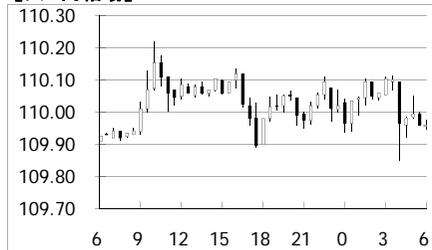
Date	Time	Event	結果	予想
1月14日	12:26	中 輸出/輸入(前年比)	12月 7.6%/16.3%	2.9%/9.6%
	12:26	中 貿易収支	12月 \$46.79b	\$45.70b
	22:30	米 CPI(前月比/前年比)	12月 0.2%/2.3%	0.3%/2.4%
1月15日	03:00	米 ジョージ・カンザスシティ連銀総裁 講演	「当面の金利維持は妥当」	

【本日の予定】

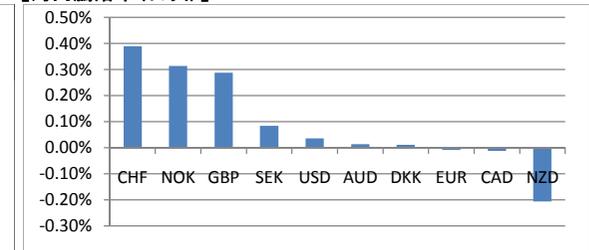
Date	Time	Event	予想	前回
1月15日	09:30	日 黒田日銀総裁 講演	-	-
	18:30	英 CPI(前月比/前年比)	12月 0.2%/1.5%	0.2%/1.5%
	19:00	欧 鉱工業生産(前月比/前年比)	11月 0.3%	-0.5%
	22:30	米 PPI最終需要(前月比/前年比)	12月 0.2%/1.3%	0.0%/1.1%
	22:30	米 ニューヨーク連銀製造業景気指数	1月 3.6	3.5
1月16日	04:00	米 米中「第1段階」通商合意調印式	ページブック	

東京	米中の第一段階合意の調印を控える中、米国による中国の「為替操作国」認定解除の報道でリスクセンチメントが改善し、東京時間早朝にドル円は2019年5月以来の110円の大台を突破。東京時間は110.01レベルでオープンし、仲値にかけて110.22までさらに上昇するも、上値を追う展開にはならず110.10付近で一服。その後は狭いレンジでの推移となり、110.10レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、110.10レベルでオープン、新規材料なく堅調維持。一時109.89円まで売られるも下げ幅は限定的で110.01レベルでNYに渡った。ロンドンでは、1.2990レベルでオープン。前日からの利下げ期待継続で朝方は1.2955まで下落するが反発し一時は1.3015レベルまで回復。ただ長続きせずに1.2977でNYに渡った。(ロンドン・トルフリー 00531 444 179 神田)
ニューヨーク	東京市場で仲値設定に掛けて昨年5/23日以来に110.22まで上昇したドル円は、本邦輸出勢や、短期筋の売りに109.89まで反落し、110.06レベルでNYオープン。朝方は、米12月CPIが予想を下回る伸びであったことから、109.97まで反落する。その後もCPI結果を受け、米金利が低下する展開に、109.94まで下落する。その後は、早朝に発表の米銀大手の決算が、過去最高となったこと等から、株式市場が堅調に推移する展開を受けた円売りに110.11まで戻す。しかし午後に入ると翌日署名される中国からの輸入品に関する減税は、第1段階合意の順守次第で、対中間税は大統領選後まで維持する可能性との関係の話が伝わったことから、円買いが持ち込まれ、109.85まで急落する。その後は短期筋のドル円の買いが持ち込まれ、110円台まで戻す局面もあったものの、堅調に推移していた株式市場がマイナス圏まで下落する展開に、ドル円は上値を重く推移し、110.00レベルでクロスした。一方、海外市場で狭いレンジでの推移が続いたユーロドルは、1.1121レベルでNYオープン。朝方は米CPI発表を前に、ドル買いが持ち込まれたことからユーロドルは下落し、その後ユーロ円の下落に連れて1.1104まで下落する。しかしCPI結果を受け、NY市場ではドル売りが優勢となり、ユーロドルが徐々に下値を切り上げ、前述の関税に関するヘッドラインもあり1.1135まで戻す。終盤に掛けては、不安定な株式市場の動きを受けたユーロ円の下落に上値は重いものの、ドル売りに下値をサポートされ、1.1126レベルでクロスした。(NY井上)

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケットインプレッション】 米長期金利2%水準にはご注意ください。

今年も正月から存在感たっぷりのトランプ大統領。年始早々飛び込んだ「米国、イランのソレイマニ司令官殺害」との報道。両国にとって「戦争」は得策ではないと頭では分かっているが、「殺害」まで踏み込んだトランプ、それを喰らったイラン側がどれだけ冷静なかを固く知ることが出来ず、私自身「戦争」という言葉を全く意識しないわけにはいかなかったわけだが、またしてもトランプに一本とられた感じだ。9・11を経験している米国民にとって、「戦争を回避しつつも、中東テロ組織の実質トップを殺害した」という今回のトランプの功績は想像以上に大きいことだろう。米中間問題についても、本日署名のPhase1は中国をフリーにせず米国側がハンドルできる条項を含んだ内容が予想されるが、きっちり「為替操作国解除」というアメも与えているあたりがトランプらしい。まさに大統領選再選に向けて着々と功績を積み上げているといった印象。昨年日本から引き出した米農産物大量購入に加え、Phase1合意内容にも相当額の米農産物購入を含んでおり、ミンガン、ウイスコンシン、アイオワといった農産物の生産量が高いスイングステートを意識していることが窺える。このような状況下、米株は史上最高値を更新し(前週末)、ドル円は110円台を示現。基本的にはトランプの株高醸成により今後ドル円は「底堅く」推移すると考えているが、ここから大幅な「上昇」は難しいだろう。弱い製造業を堅調なサービス業(=個人消費)がカバーしている米国の構図を考えると、一気に消費者心理を冷やしかねない金利上昇というリスク要因をトランプが見逃すことはないだろう。もう一段米金利が上昇した場合はトランプから牽制球を放り込んでくるのが予想され、まずは米長期金利2%という水準に意識を払いつつ、110円を上回る水準では丁寧に売っていただくことをおすすめしたい。(たさかまりえ)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 田坂・木村 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル	ベア	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ブル	ベア
								ブル	ベア
								13	7